彰古館物　秋下　共廿一冊

和書門
類
二五三五三號
六八函
二架
二一冊

内閣文庫
和書
類
二五三五三號
二一冊
二〇〇函
八架

内閣文庫
番號　和　25353
冊數　21（7）
函號　200　116

五

国立公文書館
National Archives of Japan

書籍之印

かゝのことゝ云ふ事
且字也えや意
かくと云ふ事
はまくしのいなり
和語とゝ云ふものハ
同しことゝ
いひわきまへ
うのところ
まてみなつし

独なくと八妻を
こひてなく也
あるゝ乃なれ
まさこあるゝ
はきて書し
一所にあるゝハ
くあるれまた
わるまゝさと
思ひやるゝ也

新古今和哥集巻第五

秋哥下

一和哥所まそ。れのこゝろ。をのゝ
小。夕の鹿とゝ。ゝ。ゝ。若宗家隆卿
下句集のゝ。ゝ。ゝ。

たやくちらすいはやき四なり。
いまだ枝をはなれぬ花ちるといつなり
一百首の内たてまつりしとき
八道花大臣
一山風は春きてまくきの四なり尾上の月はさよふる夜
の月はかはのさいつきてはまきて
はなれてをのれはきくまくきにかはのみち
まくはをるくきにゆとやみは春うれ
ちりはさよふけておりはまくれ
て。ちくなりくよしやとも月後て。
月はさやかるとは月をそなた
きかのなちゆよりちゆよりや

尾上のくまかは
まくきにかはと
ちり散はちは
まくとり山や

たかさはしのあれはそくらを
たてつまつたのこの
ちやまちのふく
おちくんとや

一寂蓮法しの野ふせしの苔の計はそこに山の海きさ
はは扶云。初枝のはのはのはのはのはのはのはのはの
しを。枝はやちくなるまくなるまくなるまくなるまくなる
山は入てのこのあはれそそ。
いまは山はふくはのとなり。
のをしとは月はくはの風のあはの
あはそ。春の野をはてはとと
をしくはくはくはあるはくはあるはくはある

古秋云秋のうきとよりはかれるるかれとり
とりて花はかうしと
思惟すれども繁
よたのやまつまこえ
とかうしもとき
さてはかのおよはそ
うきすの子あ
るうとこえられ
てうらまあのゆく
もなし只秋をせ
のかうよくえうう
とりうるふは遠
云まうたうう
云極の風落ぬ
殺山　武蔵國
一説　河内
秋うをあくとけ
つまあれう
とヨ
もあり
と云説

一俊恵法師

あしひきの山ふかき
情物云来よう
いうんあるあ
いれ出やりの
よりてよくも
あれはくいつ
一前中納言定家卿

妻子の家のことと
情物云。あ
てくれは秋風
おりとうの

家のあくとり
ろとうれうの
えびしてこと
とうとうとヨや

このなくこそ
百首のうた
一惟明親王

太山の秋物と
情秋云。嵐と
まりのなり
てのうの
なりやとも
なり。あく
と来すは。
一映河　家とり
一法門内大臣

一秋ぐれぬ人心哀やまさる後摩伽山の松の夕べ
堺抄云。されいかりあるまりて名
るもや。餘人もかくのごとくありはやとは。
あまりあるれさよさてもそそられ
何しんとりつり。早えんしこそいはるま
しきやい。されハ下地のやりたりのあるき
ほとふとなりりまさるとハ大うるの松の哀
よ廣るく山ってあるれのまさりとるり。
益るとてい。いてそうるとりまるるし
一百首ようるる人伯けるよ摂政太政大臣
一みこうるかのあるやたもしんを上はうるきとあるら
堺抄云。ゆえうるとあるしは彩のつきさ

くれいくるとや。彩のうるかぬ山よりふきこくぬ
月なりっぷをくもゆくうをよくしてく
くるとやそのうるをくしてくるあし
うるもむりのはてあるっぷ彩のうきとくも
してぷるとうるの山のうくくるとなり。
うるのきこくぬしてあるしのうるもむ
乃うとぷ推したるうりなり。
一千五百番の今合の前太傅正家卿
一鳴鹿の彩よめきあてをみるきこくぬ
堺抄云。下句より上へうりみうりなり。
きこくぬとい。首尾をてこねこぷ人さし
たるやのうりあるくさうりこぷるし

きたの聲をそめをさまりて一入物かなしかりしや

一家よりの合しに仕けるよ藤とよりの

一権中納言俊忠　作者歌人

忠家男　三首入

一後拾遺の哥の詞をよく義をあの哥のおそろしく

物知ぬ人のなかりしかとも

一是をもて

詠吹をそへしくぬ枝のよい詞や藤をそ

なりの

源道濃

物知ぬ人なりしかとも物のあはれ

なりけるとなれへ物のあはれ

をしらぬ人なりしかとも

あはれと山ほとゝぎすの

あるをきゝてよめる

一西行法師

一小田に蛙のなくを聞て

物知ぬ人を蛙

なくなりて物をさまりつゝやれをそ来

つゝ物をいてゝ

はやとゝろうしめをとなりゝ下るや

うめの物やゝ

都芳門院ハ
白川院第一皇
女

一白河院鳥羽おぼえしまして田をの秋
鳥とつくることを人〳〵よろこばけるよ
一中宮大夫師忠
一皇の御子をよ稚えて抱奉て庭の
御前に出給ふ。心明やか。物をみて庭に出給ふ
ものをゆゑよ。みそのよ。山里といひ玉し
て。次〳〵山さとの仲といふすり
一都芳門院の前載給ふ。
一芳の原の緋の袴
一弱はやいさ。れ。きの常盤の名仲の苔の色
御抄云。前載とハ。庭の木ものりや。
されハ前とうひて。ものすもしなるすり

八雲ハ抄云　立田国和
霞　雲　花　鶯
紅葉　夕付鳥
大とものみ門の浦近

いろ〳〵のさき花なとおりて。ものを
わりて。ものをよりて勝劣をすすり
や。角角くさ〳〵なるを。同しものあそ
ひなり。ものの心。ものの心。ものひとりわすれの
のくものくうゑの付り。男女ありてさ
あるよいとやさ。女房ハ。庭のあるものの
一のくものくうゑの付り。人のおれ。
さひしくうんとすり
一影をうつして
一三田山ハるまりよ。ものまよ。ものうつ。
古抄云。文字乃心ハ。ものの。ものといんん
ものをんなり。影。影を。ものなり。影ハ

林ゝくなりて。おもてにちらはゝ山ゝく
入しのなりぞうくとゝ河ゝぜんのうちれ
源山ゝ行系せやかすのうしこれ
野骨のとりやうなり。中の奥山よりみち
あさかなくさの行きくはうゝ林ゝ
上地。後面分人よりのたをあさをの。
兵衛ゝおさなりれとやはれ侍しとあり。
地方。後面のうゝおさなきたと於
あおさくあうしたはの宮をきくく
ゝうくうして云。侍ゝとゝよ。先生ん
みちひきやう。初心の人をく後のゝり
とくりあくるやぞうんや

この道ゝ天地とゝ為て階とのりくく
ゝくゝへき道ゝるうといりぞ。そ時後面
りのゝ首ゝきて。ぞいなきなきこの
ゝいりぞこのこのうよりちなり
場扶ぞまとゝいくゝんゝ立なりぬゝ也。
日とくきれしゝまゝくゝゝ花の前ゝ初也。
くくくゝゝぞくの前をとくくゝ踏ゝ
まるゝ。ゝくくゝゝ山くくのゝゝゝ本まゝ
ゝなれゝ前ゝゝゝ梅ゝくゝりゝよしなり。
おちくくこのくくのゝくよゝくくゝくゝ
一枝ゝ内親ゝゝ。ぞ会の後ぞ。ぞのこのみ侍
けくくゝ

擢大納言ゝ

ものゝくねをゝ形
ゝんまとゝゝの仏さま
なり

いなりゝゝさまこの
時代の仏さまや

一すきて行林のかゝゝゝゝ小男鹿のあゝをね、猜ゝ引ゝん
增拾云ゝくれてゆくあきのゝゝゝゝは雲
もれいりゝとゝゆれ乃雲ゝゝゝゝなりゝをゝ。
廉ゝとゝゝれゝ言を林のゝゝみとして。
うれをおゝゝむゝんとなゝ。林ゆゝゝゝ行
なれゝ。林の秋ゝんとゝゝゝなりゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝものゝゝゝゝゝゝゝ

秋くれなとハ年の
ゆくさまをいふとぞ
しらるるなり

一前中納言匡房
秋くれハ露のおもをとさむミ山田のいなをまとませてうきく
古抄云ぬりの物のやうなれとも田と字
ゆくさまをかくるなるへし中秋よりのちなり物
秋より中秋まてハ風さハ音しるくこゑてしらるし秋ハ末とくなり
ハ四方ハ色しきしてけしきなり
なりうゑ風のをとハ秋ハ
ひくをとをくハ秋ハ大なる田やぶるせ
てうりとハ
きくなり前よりハ
かれるものおきのあらくなるまよ。

ひくをとハ引敷
や中器の風
をくるハ一面
の秋なりうゑ
ハ秋ハ行
ハ秋ハ
さすまきき
とうとぬ

をくされなるやうハ
なり海ハ
ハ鶴
てハ
ハ
ハ

一若狭の国朝臣時鳥のさみだれなりし田とりかねさむ三社そうわり堀抄云。若狭と射してもむすぶ乃一作ものしかくきそのうかね。射うあり。詩のごとく射とるとあり

一中納言家持今よりハ社をさむく鶯いそが社もおとはね堀抄云。心明心。社のみわれ入ふ見さくあるふと。行まとなけくや。古侍の子なり

一毋丸

一拾遺雑乃つ人さは乗降てさも賤なるかな

よるくくこふとてあかつみてれわと日ふるつるうしや

つくくしかりしとはたそしらるこころかやしてそのうえまりつくつ乃はとりつくつ乃きをもハ度とりつくつるしし

堀抄云。心明なるうしやーこれさくとハ。れりしあるもう付くーさ体やこの時代よそうるつくーきたりふ。おそとねるる云ーやー古今。物歌すとりーこもくし

一さの妻うこの歌なるわさハ鶯古抄云。芸の体まこりそる器の社たーき。面白く真とるるかーやうく。名の木のしろはきうむ時のの方ーり。心きを田夫しぬ早田の雨玉

後。社ハ未まるるとしからしと心なき

もろよ心とけたるなり。神社の心面白し。説ゝ田まよなりて以ゝ
とや。ゝ哉ハ哉ゝ哉ゝ哉ゝ

くさ葉のハ面白くあてなみし神ゐまこ
このかとみあるやぱんとなれハわれ
人なら名ハよとなりぱわ心人とぱらオ
とけして云なり。

中納言家持

秋霧はむ寒の白あれとき月ハそれ秋ハ
増秋云。秋ハ秋ハくしうなくぱつくて一な
ゐあきのこ所よしやぱあさきん
なのまねくなるとぱちえれる由
なりぱまこのこ家といてとハ神て。
九花のまりふりくよかきそんたる
またなり

重芸の法師
秋ハ秋ハ秋ハとき月ハ秋ハ
増秋云。秋ハ秋ハ
あさちと家ちたぱぱとくしや
うとやぱいんとれぱ秋ハとそ
まあさちよ法師ちとそ
とそとハあとくちちきりとく
まとすり。家のとくえんとれる。
或説ハ。伊勢のあきそれていし
うしもとそうしぱちちくして
秋と契りぱときてそのそりて。
家りとくとてとちる伊とや

[illegible]

一人丸

[illegible]

堀秋。云。古体のうた。心あさくして。[illegible]

[illegible]

[illegible]

一天暦御[illegible]

[illegible]

堀秋。天暦の御[illegible]

[illegible]

[illegible]

草とりあつめてあれらをとりて人のとりあつめ家しこころとしもとくこころをとさあまりるよりやー

一後の面よりかける草をとりて心のまゝにとけ
堀川云草の色のあけさよ雪のあわくつもるさ
をるとゝそよ草のさのあけぬさきに
雪のうくハかりしかるよとゝそ
おかく垂てたりことゝせてとゝだ
ようようてのゝしのゝあるへしゝ心のまゝに
雪ハあまくとくゝ心あれハ行はあさ
わしたるとなり。雪の不塗。雪の
ようきかよおりさとみるし面白と
いいてゝたなるゝ
一白河院ゝて野草高繁と云心と。
花のこゝもはたうまつりけるは

一堀方大長長寿
秋乃花はまをとしとおとしねれてやん
堀秋云心明やゝとしとハゝのたとよ行ん
なへてなりのハるの雪のとされたる雪
もとゝやゝたはねゆくとハ行申と
行人をみてゝんとゝるゝ行をんと
尺ゝてたるゝとゝ
一百首ゝてまたゝし時。寂蓮法
一秋草和ゝ雪ゝ
古秋云ゝ草ハらくさゝゝり雪ゝ
もれ草ゝりてゝりおりてゝりた
ものよとゝたり。下句面白うたや
なゝてハゝゝん
あしと雪
ゝりゝてハゝゝ
れよ雪ゝ

杖をもけんこうなりとぞ
やうて出たれよ。そもぬものといふ。下
より上へうけてみるし。神は寄乃
弱ぬうちなりと
塔拝云。杖寄風吹て分しぬる
ようぞ。めしそうては寄乃宝ものの
とゆるしておられハ。ぞとこれ。
杖をよちりてハ寄うあきく
するとそ。これは神ようもこれ
ようるぞ。ぞ。
めしぬとうてぞとなり。
ゆるうちうあきうるり

一杖のこれ中よ　太上天皇
一寄ハ神よ物寄ハ民さうをとく必杖のあり物と
塔拝云。のくよこけくあるあるとて杖の
多病のやうなるぞ。さうてハなし。これ
物上ぞさん。神ともたけくとの家や。
さうるとしぞやうるぞ。必とハ生とし
たる何なりぞ。杖のこれとうり
ハくれぬとうり
一壁寄ようの寄のゆうと弱きてうるるは杖を
塔拝云。寄ゆんゆりとハぞ人の寄を
吹られるれよ。神の寄とうるをゆり
とうり。神の寄をあきちうるを

神ゆりをすうを人ハ神ようの寄ゆるまうしきゆつよ杖をうるうぬきうるまうしきゆ

みてこの世のわたりの事のくるしと思ふ
ふかきうり法とんとなり

一思ふ事　西行法師

きりくもて物思ふ人の身のあまりにあきうれ
堀抄云なるまゝとハよさむしかりけり
ちさくうれてとや言いはこそきり
くもりつゝむやんぷうの中秋よこゑ
うきさゝゝゝゝゝやゝ

一当覚法親王

一菊原古隆

○更のねさかき夜あはれなるよ秋の月
古抄云かりきよあうめとハよきさゝ

さかつよ更と孤夜屋なくゝゝゝと
うし三更ろのうへよ。松色のこゑと。
さてゝよせひくゝなとさものうなと云
うたなり。玄と云字待の心よりも
侍ひ。本抄云上句更と云字侍の心よりも
堀抄云上句更ろのうへ侍ひ
と。更のうかしきさゝうのうへとく云
侍ひて人の物思ふ時ハ更ろ
物と。更ろ侍ひ。下句
物のあるものとゝ侍ひ。

一百首三十中よ　式子内親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとまもなくあるわれもいとまなくぬぎかへ
ねすまのせきもりとりをはしめ心乃
なり

一千五百番歌合よ扶房 持中納言公経

衣手の袖山の雲にたちわかるるもとゝ花
古抄云。袖山ハ。ほとゝぎす。衣うつ袖
山とりはしめ。ぬけくるやうにぬけくる
なり。ぬけくるハ。袖ぬるゝなり。
増抄云。これらの歌とつれなけれとも
くはさくはさくるやうにぬけくるなり
くるしき由やうにぬけくるの心
なり他ハ。ぬけくるハ。ぬけくるの心

なりとゝ。ぬけくるやうにぬけくるとさうしきとも
なれとも。ぬけくるハ。袖ぬるゝなり。
ねの袖とゝ。ぬけくるハ。ぬけくるの義
なり

一和歌所百首合よ。月のもとに花を
とゝ。ゝ。ゝ。 持政大納言

○里ハあれぬ月やあるぬと思ても花ハ
古抄。月やあるぬとハ。の中ハの西行を
所の行ハ。ハ。ハ。

思合てあれる空とはうゝゝゝまたゝ
へき方も侍るそのうゝて哀とみる
心もてよあわれなる事やゝ秋の花
いねそなる月よりひるねる侍ると
少てく花なんるのすうるとまてて
西家のゝとおりあれ出
かうろしさゝゝや河ちるゝ感
情のさうあれ
侍秋云ゝんゝちてい門くゝやん
きぬゝのゝるゝすゝとりゝりけ
くゝさゝてゝるゝすゝてゝのゝ
ゝゝんゝきゝぬゝみゝんと家と侍

ゝゝ月秋人と
すれゝゝゝゝ秋
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ秋
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

一云口四ゝ
西と面てゝゝ人をゝて秋きゝるあきの所衣
月よりゝ秋
古秋云ゝこのうゝた人のゝとゝきゝゝゝゝ。
ゝゝすゝゝゝ衣ゝゝゝゝゝゝゝゝて月
ゝゝて。ゝて秋衣と感しゝゝ心面白ゝ
侍秋云ゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一千ゝ百番ゝ合よ。藤原定家卿
秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
古秋云ゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

と申上よ。牧らくにくさるやぶ月て月
乃とうなりて。枝のなりとと出さて
くさまむとうつるを。枝とうとこと
いりがくのとくおりいてやらく
あきとこんとうする衣は。衣手うるのや
くよ文行をきけれ。枝のうさいみ見よ
もありといつやらさてもあやまくめ
もれなといりり。きてくめ行ありおや
おくとに和徐と云とはなりおう。
未乃ちるるる月乃けみれ心はくし
のあきうくきたたり
増抄云。おやうとはやひうくめれと

増抄巻

増抄巻

増抄云。とうとうくれはるる
云なり
一撫衣とうみは付けり　大納言経信
○一説は衣ちとゆうれ統の文を略て付るなり
古抄。此方ハ蘇武の文を傍書れつ
れもの歌撫衣とうるとうむ古来
ようるんまれり。小斗星前横統雁
南樓月下撫寒衣なと付るれり。
居るも先とつ侍勢物語り。
枕うを上くとうる先こをとうる先ける
古くハ。読んの反なるしそひの見ハ
うのくれまうへうを。統なる人よ

先ゝとあつし。
坊物。これ。えひものまりよゆきてあり
し人よりうてとりぐ衣手とハ。胡國
ハきむしさかとゝ。やこの女ぞやく衣と
うらてやれとて。胡國のゝりぐらやえい
くりゝ。胡國のさらるあり。男よりとて
ハをわとりて上やうよつゝとりゝ。男よ
とゝやうけゆんとぐりゝ上ゝまり
とゝり

一中納言兼備。家屏風ニ。男ゝく
屏ゝ吹風むしかゝ衣君行てゝらゝおわるき
坊物云。胡國のまりよゆきゝ男しゝまり

八ゝはゝ物云
三ゝ物 大和國
花 中 秀月
雪 松 鶴 いえの
みみちとゝり
ゝのまきゝろ
やまとゝゝもよ
しのや

ゝとなりゝゝのきゝゝりゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝりきゝれゝしゝゝりゝゝゝゝゝみゝり

一物衣乃ハと

みゝの山の物せとよるゝてなつゝむく衣ゝ

坊物云。心物ゝりゝこのゝのハ雅経のゝのゝ中
よハゝゝゝとしてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハ門くさゝとゝゝたくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一式子内親王

ゝなけ物のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
古物云。けゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
物乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さることりはなうてぞりてなくさみと
なり侍るをわるぞ。きねるのまるのぞるることりき
まするよ。ちやとぞそのるなと思れ侍る様。
なるさめてをいて。かそそそるとぱるか
をちなりぞ。ぞるこれとハぞきねるめる
とつどもいくはしそそんなりぞるるを。
仏教よ和して感情とうくいそん
たる史なり。言語道断乃なりぞ八月
九月正長夜千声ノ声ノ無止時みの侘
よを。れのるるしみよ。分もこれなれて。
いさるちまとろそそるるなるぞあ
たのるるようちまきれて。ぞ和よ神

八幡ハ宮ハ云
とゝろのさと
やまとなり

れのるるとりぞ。碎と云河ハさるる
の音はいるとさまるるれられて。
ぞよるよ和るるの和るのるねるよ神ぞん
ぞるもるるるるし所やうなりとよりぞ。
惜和云ぞのるこれとハぞるハるるるるぞ
乃ぞるやきることなり。ぞのるれて敬く
りなるとぞ。るるるるるるるぞるるるる乃
るるるるるるるるるるるるるるるるる
百首のうたてまこれ時
るぞけり山のるるる月ぞそとゝろの里よ
惜和云。ぞ文ぞるよのるりるるるるる
ぞるるるるるりりるり。夜のるけるる

いとれハ月ハ西山よりくまなくいとハきをくいとひとのハ人ものをもとりきこえをもとりぬやゝ。ここるのハ。

九月十三夜月ハ海をくゝ伝けるとゝ保あるゝてよろんけり。道信卿ハ

秋の月みれハ神もの思ひ出ていとけ傍ハ拙。秋の末まるる月よハ。ゝろも一へ行くゝて。神くゝ。あるくゝ家ゝとゝ。

一方のゝ月ハ。ゝ。ハ。秋ゝ。ハのゝ。ゝ。ゝ。

秋の月ハ。ゝ。ハ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

一百ゝ月のゝ。ゝてゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

一独ゝ山ハ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

或伝一めみしとは
秋はまくさをすれ
ばとなりとかとう

一そとのみし野の草色うれなく雁のよすがら
増抄云雁すなわちやどる月うるのものをねもの
あるとせり。わらうなくなきさはうそう
ものといのちなるよ仏ちり。物のうること
あるを少そ人と云人したるものあり
一月うとてよりんん作ける　大納言経信
一秋はいのはれもしるかねて月のえよそく物そき
増抄云。秋の物ハ風も雨ともなるまよ。
衣と解ねてきるよりやしたるハ物うる月
ものよそくあるうるさとわ義なり。一首の云
としてハそのものとをさのとよるハあるとハ。ものの
ハれとをさるものかしとなり

秋の月歌とて　太上天皇御製
月　さゝなみ山の
秋の根くもり
雲たにしくとも
まもるものとか

いつとてかをまるまてをすとをまてをすとをいれとをんしたるをも

一九月はいつちりかるよ　花山院御歌
増抄云。九月はとをとをうなりや秋をもせる
れハよるをて。やう雨中よりもるり秋さ
ものををよりて過ぎられよるる月よ
をうたるとをとをりやとをとをりて六日月
乃ゆくとをとをりをうきをうをなり
一寂蓮法師　（ゆく方歌とうしの時）
一秋のあもまたぬ秋のそよ雲ものうる秋の夕雲
増抄云。ものををうるのねとハあハやくをやとをき
物をるものをうれをくまるもあるよきりうをを
をりそをのゆるとをアとををれのつき

○
古抄云。村雨とハをうを
くとをりをををををの秋。四月なるをを
月まをすり八月をを
をるものをの。時をう
をくをれをををを。
をを村雨のをまり

ねの家なり。秋ハ地中ハ陽気あるゆゑ水ゆかれハ。山をてきりのりとなり。燒石ゆる水をとれハ燒ちゝ門ゆゑなりとそ

一同国やしろ　たゝ国幾道光

一ねやはとの国おゝ郡ゆゑ人の神の社寄物ハ云。ゆゑのきりれちにゝさとさゝて。たゝゝゝゝあるゝゝゝゝ

八重云月山城月雪
手　麻　江東
大井川　泉元例
[illegible]
[illegible]不歌

[illegible]

一清る中深春[illegible]　仙[illegible]れ云
[illegible]序則[illegible]
一[illegible]
[illegible]

[illegible]

一人丸

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

よもくゆくやまとはきこゆるやまとたけと大
やまと山とゝもあらはしてゝ
ゝ
ゝ

世間のうさをうるハ秋よきかりてくれとしれてこハこそうくもあとなりしはしをいとをしてをけるうゆなるらんや

とをまい合てしうねのを所多り。
人とをつくしくはりよをしてざるみより
てをうをうをうをもみをくをりあるくをれ
ををしてめうをうをうをゆをうをゆをうを
くやりゆへをんをうをてをさをを人
乃をけしをさををれををり
をみ人をををて
乃尽風のきかをてををれ神結人のをを所をに
場秋。秋うををゆをうを金をうをさをゆをうを
出章ををうけてきけをんをれをうをを
ををうを。海の代ををのをををををせ
めをうををををやをを所。義武と号後と

大将軍ををゆをををしを。をの後ハ海をを
し。義武ハをををををををををををををを
をををしをををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををを

ひとしれぬ　たゞひとりてぞ　そゝるなみ
ちゝとしぬるなげくやゆゑ

西行法師

ふるさとの　せゝのうぐひす　山ぢ越の　初ねは
ゆゑ　ものいふ　ハまるとや　ぞ　ぞ

くのゝしとみてしるしあしさ
あれぬ　みまるゆゑ　ものいふ　ぞ　ぞ
この　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

白雲院　俊成卿

ゆゑ　ものいふ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

ハヤ云
たはこ山　冊陽宗
ぞ　ぞ　ぞ　たゞ
ち

いろ〳〵の　ぞ　あれども　不用や
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

前大僧正慈円

ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

俊イ

源重清師

ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

なきてすがめるをふぶのうゝのの羽
をなでて仏さまをなんて情わるんとみる
てらるゝなりゝ村そとを立うゆかたや
きくゝゝしことゝいとゝんあるゝ

一皇太后宮たゝま後成女

咲まゝこてゝ井ゝを神ゝ社ゝ
物物云ゝ仏ゝ井ゝとわるゝうゝねゝ
ゝ花しめゝくゝの松れ咲まゝよゝとゝらゝよ
みるとゝすゝ。春ゝくゝゝたゝくゝんゝるゝ河
なゝり。松のゝうゝ仏なゝうれゝゝ。ゝゝゝ
南わくゝさゝてゝゝゝくゝゝゝれゝまゝよ
つゝれゝて。ゝゝゝゝゝれゝ四ゝゝゝゝゝ

咲りのゝてわゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
松風ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
松風ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

祐之の神よりはじめ
ゆくすゑをかぎりなく
とや　ゆくすゑのかぎりなく
あさものるれへ
うせと一首のうち
はいとねへ塗
めなり

侍よあくせしこの中は山ちかく行やせ
いくるるまと
菅原家隆朝臣
祐之の神よりはじめ　ゆくすゑのかぎりなく　ゆくすゑのかぎりなく　あさものるれへ　うせと　はいとねへ　塗　めなり
扶桑山の仲やく山くてのうたる中は
ゆくやく。ゆくまくへ神とやうまきつくる
やうなとなり。神まきうんをいかも
ゆく。神是あけてのいすとしつるも
みて吟とやく。ねいうハくのあるう
たくとのめうじされハんとやとの一ものハ
うきりのみれとも山くあるあう。
神よまくと。同しくとうとも行とく
よくくとうり。ぷくとあるハ。のめいく

月まつもちち
もとりを同し
あれハさくの四の
まりなれハうり

ありかうしまうれハうそうくうり。
いくもとうれハ。同しくとりてゆく
かくふとなり
ふけそこのみめてまはうし四年離
月とくへるこうとうを面て
あれと結籬のさくなれるまま上を八山のく
吟抄云。作抄おきまとくをるしら
きくのもとくへるうをかをしてよめ
里。ぷくハぷまくくとあるうきまとつ
とあるとぷれよハぷおハまくかねハ山のく
月のうるうきくのいるよまくひくとや。
あるうきさハぷれうかきめくきういまひの

まゐりたまふ。ようてぞ帝ゐ給ふ。

鳥羽院の御。内裏よりきこえ給へ
けるよ。めでたしとかたりつたへ
花園左大臣家記云公実女
ひとしなみなるべきにはあらぬ
皇子おはす。この御母方中やがたにて
九の陽数とぞいはれ。陽中陽にて天
九をつかさどる。ゆゑにかの
あるべきやうにはあらずとぞ。
ようさまにあらずとぞ。
ほうまれ給へ。
やうにあらずとぞ。
くのつかさにあるべきにとぞ。

ちのこころをとつくるうたや

権中納言定頼卿有名歌云公任息
母照子歌正四位
いまはうせにしきのといくるを玉ちるこの
ゆふの家
塔物云。侍ってあるうりぬのえうれ
竹上胡徐はあれはさもさもしげくて
侍人なり。九月菊花と上部をそえ積
や。非ス是レ花中ニ偏ニ愛ス菊花ヲ花角畫更
無花。ナリ　ゆゑ三ハ。花のいろうつろねぬるなよ
くいうり。いくうつくしきはいとしい
てゆゑとなりてあるこころをよや
この札ゆくゆくのきりくとを
中務つ具平親王　これは村上の御子

なりつる明公也。中書王といひたてまつりこれは法中書王とぞいふなり。也法し。
ともよくしらぬ人多くなりにけり

一 はなをみるを時の花の盛りなりと詠ずるは
あらずとて
大江嘉言 作者新撰

一題しらず
云大隅守伸宣男 五位入

一 春さめもうちはなぶるは松の花
一体なり伊勢の
うちもうちふうん
まきうちもうちと
く多はなり

時雨也。四月まてよ。春さめの春雨のはるの
はるすぎていとりそ。夏のうぐひす
とやいひしりもつまりこと也。
はまりてとやいひしりもとりしり。
一仲のうみやこ
みてよいとうれいものうちよ
よみてよいとうねそ。あるよ。西の人
あるも
一千五番 河合 前大僧正慈圓

一 はしとてあれはかなしあるものの
古歌云。むしろ原まよいあくれすなる
うちうちし仲
古うしとやいひしり
てみんへきなる
つとやうくの
うちうちもと
よむしりのうち
うちあうふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるこころの歌のくに
なるちまきそ
ちまきそ
とよ上巻にあり

あるこころの歌ども
増鏡云あるこころ
のうたあるこころ
のうたあるこころ
のうたあ

古秋云きりぎりす秋ハさう河ゐれハ秋のうらよみなけ
ちれ秋とうたう○
てハ曲しあ
しきりくすよ
ちくへうの哥
ちりうの哥のこゝ
ゝ河ゐちれて
曲なきりのちりう
きりぎりすとは
こゝのうちうたけやと
云河蛩也有こゝ
秋しこゝこゝ
四ちりう物ちりう
ちりう少伍侯
こゝのよ
ちのありりの
ようこゝうつあく
ちきんちちりる花

つくさせてうこゝろまてあるよつれ
ちこゝうれてしうるものうとや

一秋うゝとて　太上天皇

一秋ゐぬなけやまゝのきりぎりすや新むし哥
場秋云きりぎりすとよめるちりう。ゆうん
すれおこうけてやゝ乳もまゝく用
ちうたうれうよ。やてきしくちうまうて。
ちふもちおるまゝきうとちりやゝ鳥や
うけくしきこのあり

一百首のしてまうわし時摂政太臣

一きりぎりすや秋の哥あ遊よ衣序安独しねん
場秋云ゝ天ねてきくゝうる花ゝ秋れ

春風桃李花甲
日秋哥接桐系
哥河けれハ河
しうきけるる
しき河ゐとちそ
ちりう
高秋云ゝ
ちこゝうきこゝ
ちりとやゝ
ちのけこうと
ちのうちうと
ちれてしうと
うんき哥ちと
ちこうこゝ
ちとうう

まゝきよゝ。むとうりハいくきんとなりゝ上るゝ
ちむしうちよれ
ちゐちくしうと
なり

一千五百番合よ春宮権大夫公経

一霞ちこゝうちの月のよ春をこけき吹ちをあや逝む
場秋云ゝ秋中春ちこゝたちやとよ。
ちれていちこゝ
秋こゝハ秋ちこゝ
こゝちちりこけちり

一和哥所ちて古の有ちの秋ちこゝまつし花
一前大僧正ちこ哥

六月の末のとハ三位のわかのゝ春ゑ殿
恋歌心
古抄云。宝玉の
ゝ
とハなとゝ
月とゝ
ゝ

一秋の花おもしろの源のゝ
増抄。秋ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

一萩乃ゝ
ゝ
ゝ

一七月ゝ
増抄。七月
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

一持政大政大将ゝ
ゝ
ゝ

一龍の中の
増抄云。家持
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

一秋
ゝ
ゝ

一中務卿
一
増抄云。
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

八雲抄云
神南大和国
又しろ月いくさ
け 五条 元
神くらの
さとあらけ
あらさけ

紅葉遊覧さ、ふさ成

高倉院御哥

うて青はさ乃ふ葉をそやとるとの部と
塚形云ふまり上とハふまり上ぬ山とくて
まうてれとも。うてきりうりなる。めく
めれてみゆるとうりきりと系とる
うりやく

林系とてうる八條院高倉

化者外類八條院高倉前大納言実
長女

神南のしろは稲いなんうての山ては白すう氏
塚形云ふ明なり。尤くあうこうこ所毎

八雲抄云
すくり門 伊勢国
五ヤそ也 よのこえ
ふこえむしこうり
山田原 伊勢
大神宮也 西行
外宮のにをこ也

すくれハ面白よ。海ーてこもりのやまうと
なり

家勝四天王院の障子よ。すくり門さ
ふ。ふ

太上天皇

秋原川ふうきあ成よ月ねて山田の原の所毎
塚形云ふ月ねて山田の原の所毎
ふくふ。
ふくふ。ふ。ふ。

一ふしみやの里 ふしみ山 ふしみ山 ふしみ山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古抄云ちかのしまの
所のもしほ木ゆかりなりけりそのゆへ
泉門のをゝ木ハ
なるのゝうハなるれとも所をハ四季物
彼のをとゝ
あしけくんとゝ
俗物云ゆとゝ
とゝ
けゝり
高ゝゝゝ
のゝ
ゝゝ

俗ゝの絡ゝあれゝ宿ゝ
不ゝゝ

保俊頼卿

故ゝ
俗物云
なゝの
ゝなり
なゝゝ

百首
式子内親王

桐ゝ
古抄云
と云

梧桐葉落天下知秋

春風花李花開日秋露梧桐葉落時

このうちにあるべきことはかくこそ云はるべきなりけれ

とぞ思ひしるべきなりけるとぞ云はるべきなりけれ

しのぶ草のもとにはかくれもさ

ぞ人はりなく桐のこずえ葉ずりてこそ

もとのりれあきはけたんやもなし

ゆゆしき人とまりやどりもとらんとぞ

今いそしてらこのみちとあきんや

云ひとおそ[illegible]ぬるとを人をまたとなのけ

れくいつるところきくなるけなり

かなりとて字所無なり

傍抄云。ひりやとみちもなきまて芦な

けりつれるきゝ人をまりとせまりよこの所

とあまくそ。ぬるとをとまりそいはゆ

れくしみちもなきまてきりの中ふる雨

やなりへ人をまりよみちもなきまて

あれくとて[illegible]あてあるのして

よ[illegible]なり

一題云。前[illegible]孫好忠

人ハ[illegible]風ふ[illegible]敬そてまくを[illegible]の所よりる

傍抄云。杜の[illegible]ことにまくしくるのしく

なりしやなるのよつけてしりり

もみの人のあるかなり

一守元法親王の歌を前よりみたのうる

一春文僧たゝ公継

一五葉大の色は海をて白雪をまとうて桜の

ゆふ紅葉云。岩ねをまとうてのはをあ

のあれし。ちるを吹ゝうるをまつせ

て秋のうゝうゝとうゝうゝよそのあの

ゝとものれうゝとすりたり

一千五百番の合は前右兵衛督

一家所の山行の下紅葉ゝ桜の花

ゆふ紅葉云。ゝ家のしゝわしてゝくりのやまは

下紅葉のうゝとゝゆふ紅葉ゝ

八雲に秋云

りゝ山立江の在

上野元紅葉

時雨露

ゝきね同しくはぬゝとものみゝやとゝん。この

二首ゝとゝりゝ宮てよりゝ三のゝゝり。あゝく

れのゝり山けゝれゝれゝゝれゝし。桜のゝ

ゝゝりゝゝる。三のゝてゝゝんゝやゝ。伊勢の海。

ゝゝいゝくゝもあゝしゝとゝりゝはゝとゝゝいゝしゝあり

一悲ゝゝ

西行法師

○松ゝゝゝまゝゝ花のゝゝ散ゝゝりゝゝ山の桜は風ゝゝゝ

ゝゝ。ゝけゝゝ宮ゝゝゝ。松はゝゝゝ伊勢ゝゝゝ

れはゝゝの松ゝゝゝ記ゝゝきたゝゝゝなれと。

ゝゝ海しゝゝゝ

風をしきよちうわんなふまもそハ
あるりのうとつ山のとれすきうんとう
たりをけうをなりぬ風をきまをハつく吹
ゆやりのうりのまりはりてあるう
ううてしりけうすうあれうん
山雲のあるをきよりのとれのうらこ
れハあのやむるなりへもすきめす
ゆしまうをとつうさみるのりや。
増物云やまのあれうしあまう
まうさのうつりはりとつをなう
ううてしまりのうとあうもあり。
ハあ山よりうやまりりやりも

八雲云枝教云
かくの所内
後拾ゝうう

れハさとりあ山とやりりやりうあ
しあ山あのまきのうあるとつ大宝
の行うふまきたうちうりうう
あ山のもれうちうきんとなり
一けけ性寺の道前宮百大臣之家歌
一前参儀親隆
作者永歓云 大義冨房男
一首入
一うう宮所のうの極お楽都あうりよ枝を
増物云よううもう系のみうをう
ねりよ吹ハあ楽ハ月倫ゆもう系
とうりううハ有信あ楽ハ非ほや。

[illegible]

一百その[illegible]そ[illegible]は二条院さぬき

一散るは[illegible]の[illegible]はなれは[illegible]山の水

ゆふ秋云水のみなかみはいかなる[illegible]

[illegible]のなれはいく云なりそもわくは[illegible]

中やしろ[illegible]の[illegible]

一[illegible]

一[illegible]門[illegible]

ゆふ秋云[illegible]山のかきを吟[illegible]

[illegible]

八重云大和國
百[illegible]集 頼[illegible]の
[illegible]

[illegible]山 大和國
雪 雲 花 紅葉
月 石橋
[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

ゆふ秋云人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一権中納云公孫

あ葉とときそ嵐のそよあこの山ゆ[illegible]

塔杉云山のあかあしもわかれそ

おくりハくしのとまりかの方ハ

あのくくおの葉かみるとやさそ仕。

くくそすりかりひやくくかりう

あよ古方ゆ会し仕ける義

桜図 左改大仕

三田姫とゆ杉ハ風ゆ毎とくくの神る

古杉云ぴこそのはけにこ杉のこりなり

とハうし一きしゆ木くくゆ神とそ

[illegible]

一千五百歩田方 今ハ権中納云兼宗

杉杉の形ハ今ハ[illegible]

塔杉云時くくの同りのとなるすはや

ゆみらもゆとのりはとまりんされ。

のくくくくもゆくくくもゆくくくゆ

たのもうして穿
けるかの御のうか
もなく成と云
なりたのしい
とゝ谷ゝて
ゝうなり

あそいうのして秋のうことゝてあんとや
一りみうこゝ国ゝてよみけるか
一あゝ納ゝゝゝ任
一みしれてゝるあ東大し弓箭ハ山ちうこゝ
塔物云ぞしれてハなゝちあまゝこゝれ
たちてゝりゝゝ秋ゝゝゝくゝゝゝの
一れハゝゝゝ秋ゝ行しゝゝしまゝ
一みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一所のゝゝて行ける氏道ゝゝ行ゝゝゝし
一ゝゝ
一夜ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

紙同ハつのゝふゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝれハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
同國の名ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一あゝゝ匠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一隠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝれの秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
塔物云ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やしらハるみくまゝきことゝうゝ
五十首うたよみまきをはりぬる
字定は親王
ヲよくていさハ秋と行こんさてしりわき
増物云殿宴秋と行ゝ　えらもきとき
ゝのるやさるまりてとゆめやこと
しハ分よくてとあてうんたるの命
るハうそあうめどそ命のとくうう
まきのるてゆめくれハ分まうて
そめそうんとうりゆさハとハゆさう
ハとやさうてもハ秋よくとてしゆき
とゆゝまうもどうきれとよとや

国九月童の四と　第五段本
更てるのれゝさまうくてたゝしられ
秋ちはる月秋のかきりは
増物云月のうすかさうれハ秋
むうろもまさるとなりぬてうとハ
そくゆのをあうう国月のあハ常
位まりるさうとうう常住ようくてれ
ゝむとなりゆ白ちうるくとて
ふとえるう

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan